

教員名	大島 登志彦	所属学科	経営学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>私は、経営学科に所属していますが、専門科目は地理学です。そのなかでの専門分野は、鉄道や路線バスなどの公共交通の地域との関わりを学ぶ交通地理学、もう一つは、失われていく過去の地域経済の発展を築いてきた産業遺産を調査・研究・保存を推進すべく産業考古学で、授業は、「交通論」、「世界地誌」「日本地誌」を担当しています。ゼミでの学習や研究テーマは、次の4項目を指針としてきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の変遷と公共交通機関の関係 2. 近代産業の盛衰とその遺跡(富岡製糸場や関連絹遺産、鉄道や鉱業遺産など) 3. 環境に関わる地理的事項(近年の温暖化や異常気象、電力・資源・エネルギー問題) 4. ユニークな市町村や、市町村合併に関わる諸問題 			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>毎週のゼミ学習は、教養書の輪読や図表・参考文献などの挿入方法、旅行の卓上計画を立てるなど、随時多面的な学習を行います。卒業研究は、各種の専門科目で学ぶ経済・経営学的視点を踏まえて、私の上記授業での地理的素養をもとに、ゼミ生各自の決めたテーマで、フィールド調査による見聞と資料収集による研究を積み重ねていきます。</p> <p>近年の群馬県における大きなニュースとして、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産登録されたことがあげられます。産業考古学を多少とも研究してきた私やわがゼミでは、それに少しでも貢献することを目的に、2014年度には、富岡製糸場来場者に対して、旅行の動向や蚕糸絹文化を尋ねるアンケート調査に取り組みました。当ゼミは、今後も養蚕製糸に関わる研究を継続するとともに、地域と連携しながら、鉄道や路線バスなどの公共交通の変遷と課題等々、毎年、幾つかの課題研究に取り組み、公共交通を利用した群馬の観光の活性化なども含めて、地理・歴史的見聞を深め、経済・経営的視点も含めて、学んでいくことをモットーとしています。</p> <p>そのほか、3年生主体で、入ゼミが決まった2年生も参加して、夏休みに2～3泊で臨地フィールド調査を行います。近年は、伊豆・箱根や会津若松に行きました。また、冬・春休みには、日帰りの研修旅行を行います。4年次には、それらを通して得たノウハウや資料をもとに、何回かの中間報告を重ねて、卒論を完成させます。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>地域を肌で感じながら見聞する事によって、地域の事情に精通し、いわゆる土地感が養われます。ゼミ生の就職先は多様ですが、地方自治体、鉄道事業者や旅行会社が多く、それらの分野に就職すると、その土地感が直ぐに仕事に生かせると思います。</p>			
<p>【おすすめの入門書・基本テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高木賢『日本の蚕糸のものがたり』(2014年、大成出版社) ・青木栄一『鉄道の地理学』(2008年、WAVE出版) 			
<p>【まだ見ぬ君へのメッセージ】</p> <p>「旅行や地理、鉄道が好きな人」、「歴史や地理、古いものに興味がある人」、「何か面白いモノを見たり研究したい」・・・、などと思う人は、大島ゼミをお勧めします。</p>			